

児童指導要録 観点別評価から評定へ

○指導に関する記録

I 観点別学習状況

(1) 表示方法

- A 十分満足できると判断されるもの
- B おおむね満足できると判断されるもの
- C 努力を要すると判断されるもの

(2) 本校の具体的な評定基準

各教科の目標に照らして

- A およそ90%以上を満たしている者
- B およそ60%以上90%未満を満たしている者
- C およそ60%未満を満たしている者

II 評定について

(1) 表示方法

- 3 十分満足できると判断されるもの
- 2 おおむね満足できると判断されるもの
- 1 努力を要すると判断されるもの

(2) 本校の具体的な評定基準

各教科の目標に照らして

- 3 およそ90%以上を満たしている者
- 2 およそ60%以上90%未満を満たしている者
- 1 およそ60%未満を満たしている者とする。

判断する具体的な方法としては

- ① 観点別学習状況を点数化する。
- ② 合計し、平均化する。
- ③ 平均点が 2.7 以上 = 3 評定
1.8 以上～2.7 未満 = 2 評定
1.8 未満 = 1 評定

評定	3 観点
3	AAA AAB
2	ABB BBB BBC
1	BCC CCC

III 作成と保管について

様式1 紙で保管。20年間保存。新1年生と転入生分は電子作成し、プリントアウトする。2年次以降は紙に記入していく。住所や氏名等、変更がある場合はその都度書き加える。

様式2 電子作成し、電子保管。ただし、卒業時、指導要録変更後、転出時においては転出手続き前に必ずプリントアウトする。（記録が取り出せなくなるため）5年間保存。

通知表の記入について

評価・通知表委員会

1, 学習の記録

評価基準

- A（よくできる） 90%以上
- B（できる） 65～89%
- C（がんばろう） 65%未満

※この評価基準を原則とする。この範囲内において各学年で調整する。

※評価・評定の根拠を保護者に説明できるようにする。

2, 読書科の記録は、学習内容や活動内容などを3学期に記述する。

3, 生活・行動のようす

1～4年は2段階評価、5～6年は3段階評価とする。

評価基準

1～4年

- B（できる） 70%以上
- C（がんばろう） 70%未満

5～6年

- A（よくできる） 90%以上
- B（できる） 70～89%
- C（がんばろう） 70%未満

※数値化できる項目に関しては、この評価基準を原則とする。この範囲内において各学年で調整する。

※数値化できない項目に関しては、評価・評定の根拠を保護者に説明できるようにする。

4, 総合の時間の記録は、学習を通して観点の中のどの力が身についたかを記述する。

5, 所見

・所見の記入内容によって、日頃の児童理解や担任の教育姿勢などが保護者に伝わるようにすることが大切である。そこで、記入にあたって、以下のことに留意する。

- ① 人権尊重の観点から表記に関しては十分に気を付ける。
- ② 積極的に長所を取り上げる。
- ③ 成長したこと、よい点などは具体的に記入する。
- ④ 児童や保護者に誤解を与えないように表記に気を付ける。
- ⑤ 誤字・脱字・文のねじれに気を付ける。
- ⑥ 低中高学年（学年）で評価や評定について共通理解を図る。

6, 特別活動の記録

1～6年 学級での係名をわかりやすく記入する。

4～6年 クラブ活動…クラブ名を3学期に記入する。（役職名を記入する。）

5～6年 委員会…前期・後期それぞれの委員会名を記入する。（役職名を記入する。）

※後期は、3学期に記入する。

7, その他

- ① 必ず学習の記録を含め、全ての次項に関して、学年で読み合わせ後に提出する。
- ② 修了証を渡す際は、児童の生年月日を記入し、学校印を校長名（最後の文字に半分重ね）の右横に押印する。
- ③ 校長印は担任が押印する。